

# I

## 序 論

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

北見市は平成18年(2006年)の合併後、新市まちづくり計画をまちづくりのマスタープランとし、その後、平成21年(2009年)3月に北見市総合計画を策定しました。北見市総合計画では、北見市の将来像として掲げた「ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市 - 安心な活力都市 北見 -」の実現に向けて、各種計画や施策・事業を展開し、オホーツク圏域の中核都市としての「まちづくり」を進めてきました。

総合計画策定から10年が経過し、人口減少・少子高齢化の進行など、北見市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。

そうしたなか、まちづくりの長期的な展望に立った将来像を描き、総合的かつ計画的な市政運営を図るため、「北見市まちづくり基本条例」に基づき、新たな総合計画を策定するものです。

新たに策定する第2期北見市総合計画は、社会経済情勢の変化を的確に捉え、将来においても持続可能なオホーツク圏域の中核都市をめざす北見市のまちづくりの指針となるものです。

## 2. 計画の役割

この計画は、北見市がめざす今後10年間の将来像を示し、その実現に向けたまちづくりの基本目標などを総合的かつ体系的にまとめ、長期展望に立った「まちづくり」の最上位に位置づけられる計画です。

## 3. 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成しています。

計画期間は平成31年度から平成40年度(2019年度から2028年度)までの10年間とします。

なお、長期的な計画のため、今後、予想を超える社会経済情勢の変化があった場合は、本計画を弾力的に改訂します。

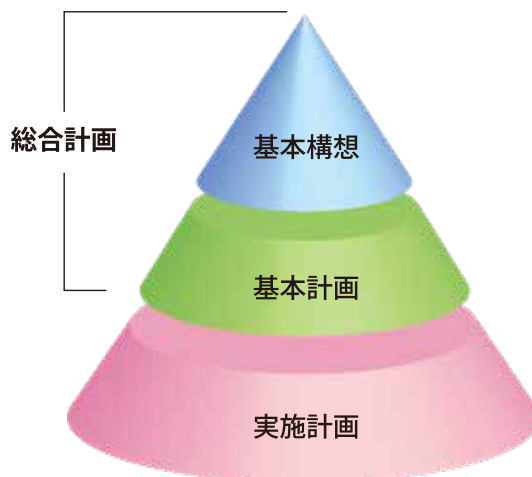
### ① 基本構想

基本構想の期間は10年間とします。北見市のめざすべき将来像を示し、その実現に向けたまちづくりの基本目標(施策の大綱)などを明らかにし、基本計画の方向付けを行うものです。

### ② 基本計画

基本計画の期間は、急速に変化する社会経済情勢に柔軟に対応していくため、前期基本計画5年間、後期基本計画5年間とします。

基本計画は、基本構想を実現するため、分野別の主要施策や目標とする指標などを明らかにするものです。





## 第2章 計画策定の視点

次の4つの基本的視点を持って、この計画を策定しました。

### 1. 次代に対応した計画づくり

急速な人口減少や少子高齢社会に対応するとともに、多様化する地域課題や市民ニーズを的確に捉え、次代につなぐ持続可能なまちづくりに向けた計画とします。

### 2. 実効性ある計画づくり

厳しい財政状況を考慮し、効率的で効果的な市政運営及び事業展開につながるよう、行政評価でのPDCAサイクル\*による進行管理やKPI\*などの評価指標を設定し実効性のある計画とします。

### 3. 市民参画による計画づくり

市民の参画機会の充実を図り、世代や性別を問わず幅広い市民の意見把握に努め、より身近で民主体のまちづくりにつながる計画とします。

### 4. 地域特性を活かした計画づくり

広大な面積と多彩な地域資源を有する地域特性を活かした魅力あるまちづくりを進める計画とします。



※PDCAサイクル…限りある行政資源(予算・人員・情報・技術など)をより有効かつ適切に配分していくために、目標を定め事務事業について有効性、効率性、影響力等を総合的な観点から評価し、見直し改善を図る事務事業管理の手法。(Plan(計画・予算)－Do(事業実施)－Check(評価)－Action(改善・改革))

※KPI…重要実績評価指標(Key Performance Indicators)目標達成の状況を判断するための関連性のある数値指標。